

## 苗木需給に関する現地検討会（令和8年2月13日）

【宮崎森林管理署・宮崎森林管理署都城支署】

### 現在のコンテナ苗の問題点

・ここ数年苗不足が慢性化しており、県が主体となり新規生産者を募り増産を目指しているが苗木の増産には至っていない。

また、苗不足のため、数量確保に重点が置かれ苗の質の低下がみられる。（根鉢形成が甘く、形状比の高い苗が多く植栽時に根鉢の崩れや倒伏する苗が多くみられる。）

・コンテナ苗の挿し付けが秋と春年2回のため増産が難しく、ましてや露地苗を同時生産するとなるとかなり難しい。

・精度のいい穂木の数量確保。

・今までは、育苗に力を入れてきたが作業工程の上で一番手がかかるのが選別・出荷作業である。

・本州・四国は、実生にて生産を行っているが九州は、挿し木にて生産を行っておりコストがかかりすぎる。しかし、苗単価は、本州と比べ安い。

### 今後の苗木生産の課題・目標

・生産の効率化を進め、早急に大量生産を実現する。（挿し付け機の開発）

・特定母樹の母樹園の整備・造林地での穂木の確保

・穂木採取技術者の養成（特に造林地での採穂）

・山どれの穂木が必要となる。そのため、苗木生産において、林業事業者との連携が不可欠である。

署会議室での連携会議



苗木生産現場での現地検討会

